

宮島の

やな場のお地藏さん

平成二年八月五日号

新富士駅から西へ五分ほど歩いた住宅地の中に「やな場の地藏さん」と呼ばれる石仏があります。

今回は、宮島の大石武夫さんと吉川彦太郎さんに、このお地藏さんの話を伺いました。

やなにかかつた地藏

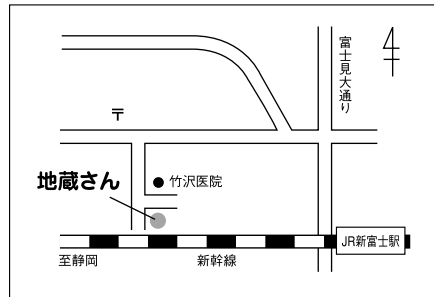
木・竹などで川を遮り、魚をとる仕掛けをやなと言います。

昔、富士川がとても暴れん坊のころ、宮島

地区には幾つもの川があり、やな漁が盛んでした。

大雨の降った翌日のことです。漁師がやなへ行くと、何か大きな物がかかっているではありませんか。「よいしょ」と引き上げると、それは五十

センチぐらいのお地藏さんでした。どこから来たのかわからないのでそのままにしておく、毎晩小僧が出てきて火をたいているといいます。しかし、朝確かめると火をたいた跡などありません。不思議に思った村人たちは相談して、そのお地藏さんを祭ることになりました。



移転で続く不幸

時はたち、村人は宮島下の観音様と一緒に祭った方がよかろうと、場所を移しました。



▶ やな場のお地藏さん

ところが、それから急に、子どもが病気に
なったり、病気の人は治らなくなるなど、不
幸が続くようになりました。どうしてだろう
と思っていると、あるおじいさんの夢にお地
蔵さんが二回もあらわれました。

それを聞いた村人は、お地藏さんが元の場
所に帰りがたっているに違いないと思い、元
に戻しました。すると、不幸がピタリとなく
なりました。

八月二十三日がお祭り

大石さんと吉川さんは「お地藏さんは山梨県
から流れて来たらしいね。八月二十三日がお
祭りで、昔はごちそうをしたりして楽しみで
した。今は周りの人で行っています(平成二年)。
お地藏さんを動かしたのは戦争中で、実際不
幸が続き困ったよ」と語ってくれました。

語ってくれた方

大石武夫さん、吉川彦太郎さん